

使ってみよう漢方薬（第6回）

関節痛、神経痛に

体を温め、痛みとむくみを取る
桂枝加朮附湯を使ってみよう。

顎関節症に使ってみる。冷えると痛みが強くなる場合に効きやすい。

三叉神経痛に使ってみる。カルバマゼピンに併用すると、投与量も減らしやすい。アコニンサニ錠などの加工附子を加えると、鎮痛作用がさらに強まる。

神経障害性疼痛に使ってみる。骨折、外傷、抜歯後、抜髄後、外科処置などによる神経障害後の痛み、痺れに使ってみる。プレガバリン等に併用すると、投与量も減らしやすい。

舌痛症に使ってみる。むくんで、歯に擦れひりひり痛い場合、むくみと痛みの改善に期待できる。

注意事項

体を温める作用が強いので、暑がりの人は夏場に、のぼせることがあるので、その場合は減量すること。寝る前に飲むと、夜間尿が増える可能性がある。

桂枝・芍薬・生姜・大棗・附子・朮	鎮痛作用
桂枝・芍薬・甘草・附子	抗炎症作用
大棗・生姜・甘草	鎮咳作用
桂枝・附子・朮	利尿作用
桂枝・大棗・生姜・附子・朮	温熱作用
大棗・生姜	滋養強壯
大棗・芍薬・甘草	筋弛緩、止瀉作用

痛み

- 110 立効散
- 68 芍薬甘草湯
- 1 葛根湯
- 18 桂枝加朮附湯

保険病名

- 抜歯後の疼痛、歯痛（うがいでも可、三叉神経痛、舌痛症も効く）
- 筋肉痛（急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛）
- 三叉神経痛（上半身の神経痛）、炎症性疾患、肩こり（筋肉痛）
- 顎関節症、三叉神経痛（神経障害による痛み・痺れ、舌痛症）

桂枝加朮附湯は今年2023年に歯科用薬剤点数表に追加されました。

44回 瀧 邦高

けいし かじゅつぶ とう

桂枝加朮附湯 18

解表剤：太陽病期 気水に働く
附子剤、利尿剤、桂枝湯加減方

【効能効果】

関節痛、神経痛

【特徴】

桂枝湯に朮と附子加わる。
葛根湯と比べると麻黄と葛根が朮と附子に置き換わっている。
朮はツムラ、JPSでは蒼朮、他は白朮で、どちらも利尿作用あり。
附子はトリカブトの塊根を加圧加熱で無毒化して使用している。
鎮痛、利尿、温熱、強心、抗炎症作用あり。

